

令和5年度 経営発達支援計画 実績報告

当所の経営発達支援計画にかかる評価委員会を下記の通り開催いたしました。
評価委員3名の方へ事業内容および実績を報告し、評価と意見を頂きました。

日 時：令和6年7月25日（木）10：00～11：40

場 所：当所2階常議員会室

委 員：南山 賢悟様（中小企業診断士）

米山 浩司様（日本政策金融公庫彦根支店総括課長）

橋本 邦彦様（彦根市産業部次長兼地域経済振興課課長）

- ・「RESAS」の公表内容を精査し、フィードバックまでできればよいのではないか。
- ・無関係者からのアンケートであればハードルが高いため関係者からのサンプル回収から始めるのがよいのでは。
- ・企画の重点が変更されたので良い評価となっている。支援をするだけでなく実施するところまで伴走することに意味がある。
- ・滋賀大学のデータサイエンス学部に支援をいただくことも効果的ではないか。
- ・実績を重ねるだけの業務とならないように、1件1件の支援内容の密度を濃くするようにしていただく。
- ・通常の伴走支援の中でカムアップできるように支援いただきたい。
- ・JETROだけで解決できる案件と解決できない案件があるので商工会議所のサポートを合わせて行う多重支援を行うことでより効果的な施策となる。
- ・バックグラウンドにある情報連携が第三者機関にもメリットとなっている。
- ・職員同士の活発に情報共有が取れるような関係性を築いていければと思う。
- ・自身の成長と場面の重点化をすることで事業者へ還元をしていただきたい。
- ・少ない人員で計画から実行までされるのは大変な面が多いと思うが、小規模事業者の経営安定の支援に繋げていただきたい。
- ・支援が必要な事業所を見極めて支援をされる必要がある。日本政策金融公庫も活用いただき重点的な支援施策としていただきたい。
- ・事業承継（後継ぎ支援までを含む）取組を行政・公庫・当所で実施を目指したい。